

現場へイマ、
イマを伝える



ハリナレ!
(ハリマビシステムナレッジレポート)

避難所での感染防止対策

今回のトピックス

新型コロナウイルス感染症については、日本国内においても感染経路が特定できない症例が多数に上り、かつ、急速な増加が確認されています。

こうした状況で、大雨などの自然災害が発生し、避難所に避難することになった場合、感染防止対策に万全を期することが重要となります。

各市町村でも避難所の感染防止対策を進めておりますが、避難所では新型コロナウイルス感染症に限らず、特定の感染症が流行することがありますので、みなさまも可能な限りの感染防止対策を行っていただきますようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策

多くの方が避難する避難所では3密(密集、密接、密閉)状態になることから、避難所においては新型コロナウイルスの感染防止対策が重要です。

- ・ 避難所での備蓄品には限りがあるので、マスク、アルコールなどの消毒液、体温計は持参するようにしましょう。(アルコール消毒液がない場合はウェットティッシュでも構いません。)
- ・ 新型コロナウイルスに感染している可能性のある人、例えば熱や咳などの症状がある人や、新型コロナウイルス患者の濃厚接触者になっている人は、避難所の中でも別のスペースが割り当てられていることが多いため、入所時に申告するようにしましょう。
- ・ 避難所に入所後も定期的に体温測定を行い、発熱や体調不良が現れたときには速やかに報告するようにしましょう。

汚染された水からの感染症対策

浸水や洪水から避難する際に皮膚に傷がある場合、傷が汚染された水に曝されることで感染することがあります。

- ・ ビブリオは特定の沿岸水域に生息する細菌であり、開放された傷口がこれに曝されると皮膚感染症を引き起こすことがあり、洪水のときに流行することがあります。
- ・ レプトスピラという細菌はネズミの尿に汚染された水を介して人の皮膚の傷口から入り込み発熱、眼球結膜充血、筋肉痛などを特徴とする感染症を起こし、洪水のときに流行することがあります。
- ・ 皮膚に傷がある場合は、汚れた水に曝されないようにし、もし傷が水に浸かってしまった場合は、石鹸と水でよく洗って清潔な絆創膏などで覆うようにし、傷口が赤く腫れたり、黄色い膿が滲み出てきたりした場合は、直ちに医師の診察を受けるようにしましょう。

新型コロナウイルス感染症だけでなく、避難所で流行しやすいノロウイルス感染症などの下痢症対策も含めて、こまめな手洗いや消毒が重要です。また、感染症対策ではありませんが、暑い時期ですので熱中症に注意し水分を十分摂ることも心掛けましょう。

避難場所では、インフルエンザや風邪、嘔吐下痢症の流行が心配されています。



【感染予防のための8カ条】 vol.1.0

～可能な限り守っていただきたいこと～

- ① 食事は可能な限り加熱したものをとるようにしましょう
- ② 安心して飲める水だけを飲用とし、きれいなコップで飲みましょう
- ③ ごはんの前、トイレの後には手を洗いましょう
(水やアルコール手指消毒薬で洗ってください)
- ④ おむつは所定の場所に捨てて、よく手を洗いましょう



～症状があるときは～

- ⑤ 咳が出るときには、周りに飛ばさないようにクチを手でおおひましょう (マスクがあるときはマスクをつけてください)
- ⑥ 熱っぽい、のどが痛い、咳、けが、嘔吐、下痢などがあるとき、特にまわりに同じような症状が増えているときには、医師や看護師、代表の方に相談してください。
- ⑦ 熱や咳が出ている人、介護する人はなるべくマスクをしてください。
- ⑧ 次の症状がある場合には、早めに医療機関での治療が必要かもしれません。医師や看護師、代表の方に相談してください。
 - ・咳がひどいとき、黄色い痰が多くなっている場合
 - ・息苦しい場合、呼吸が荒い場合
 - ・ぐったりしている、顔色が悪い場合



※特に子供やお年寄りでは症状が現れにくいことがありますので、まわりの人から見て何かいつもと様子が違う場合には連絡してください。